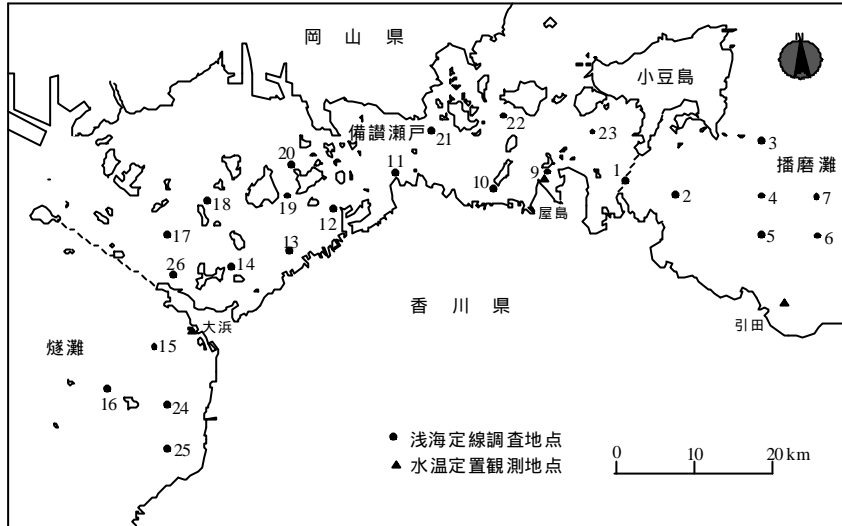


香川県漁海況速報 平成14年9月(H14-6号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成14年9月4日(播磨灘) 3日(備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや高めから著しく高め」、塩分は「平年並みからかなり高め」、透明度は「かなり低めから平年並み」、溶存酸素は「平年並みからやや高め」であった。

平年偏差 = 平均値 - 平年値

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	27.7	27.1	26.9	32.3	32.4	32.5	6.4	4.68	3.72
	平年値	26.8	26.4	25.3	31.6	31.6	31.7	8.6	4.52	2.85
	平年偏差	0.8	0.7	1.7	0.7	0.7	0.8	-2.2	0.16	0.87
	状況	やや高め	やや高め	かなり高め	やや高め	やや高め	かなり高め	かなり低め	平年並み	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	27.8	27.3	27.2	32.3	32.4	32.4	4.9	4.25	4.10
	平年値	26.8	26.6	26.3	31.5	31.6	31.9	4.6	4.32	4.07
	平年偏差	1.1	0.7	0.9	0.9	0.8	0.5	0.4	-0.07	0.03
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	28.2	27.5	27.0	32.1	32.6	32.6	9.0	4.54	3.72
	平年値	27.6	26.5	24.8	31.5	31.9	32.1	11.0	4.59	2.55
	平年偏差	0.7	1.0	2.2	0.6	0.7	0.6	-2.0	-0.05	1.17
	状況	やや高め	やや高め	著しく高め	平年並み	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み	やや高め

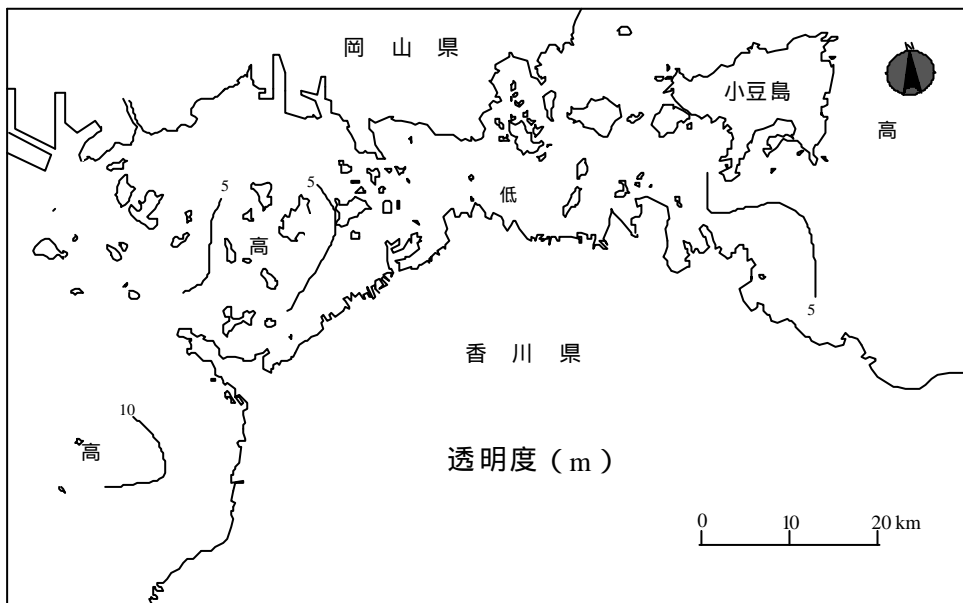
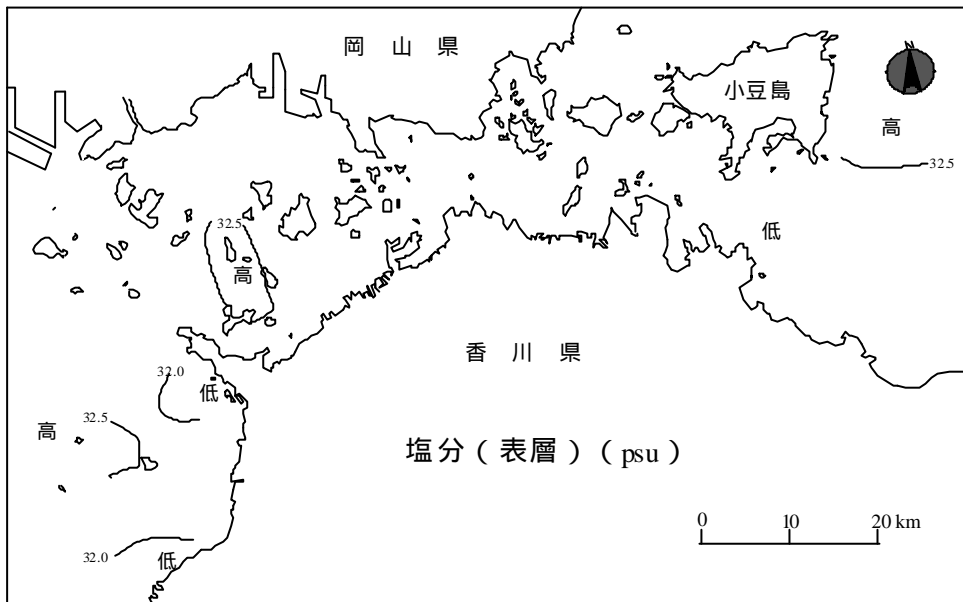
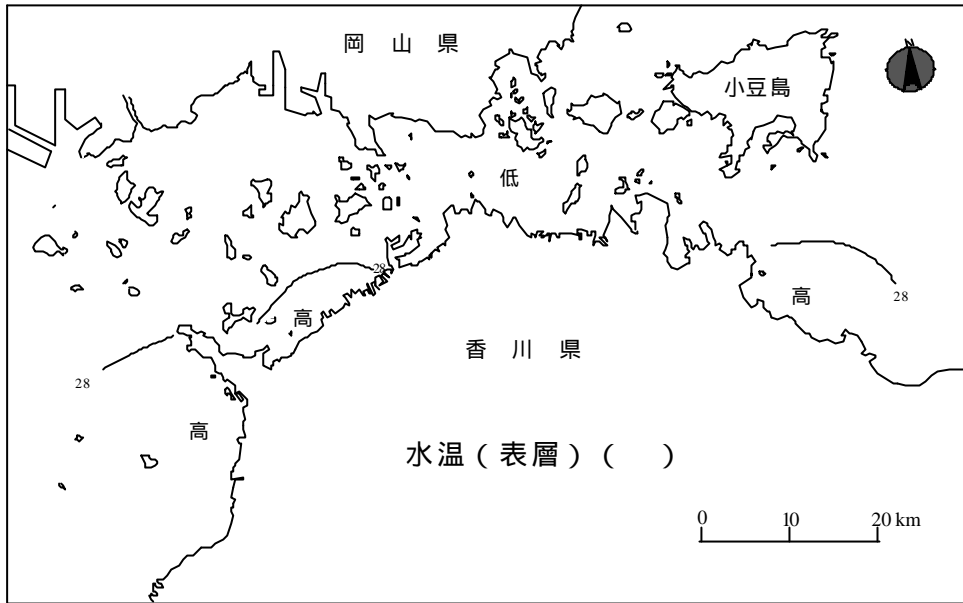
平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成8(1996)年度

透明度：昭和58(1983)～平成8(1996)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6
やや高め(やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3
かなり高め(かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0
著しく高め(著しく低め)	2.0	平年偏差
		: 標準偏差



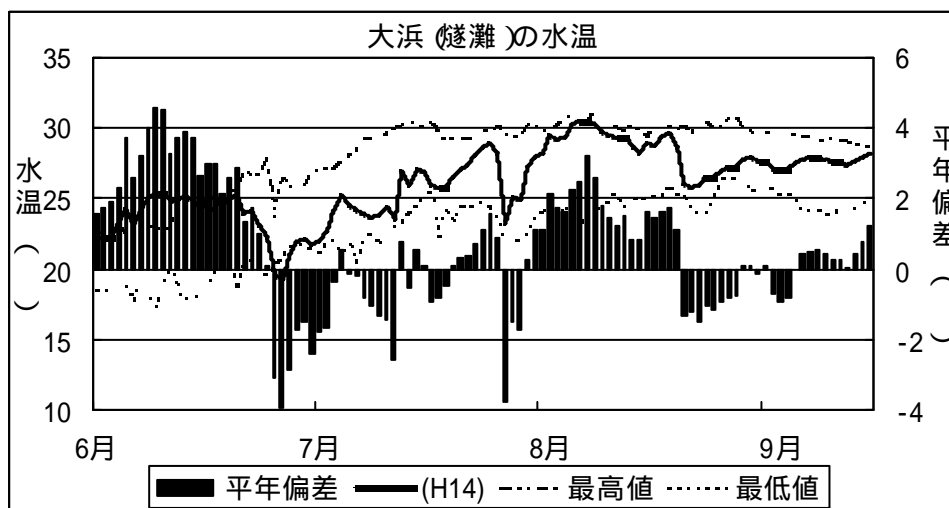
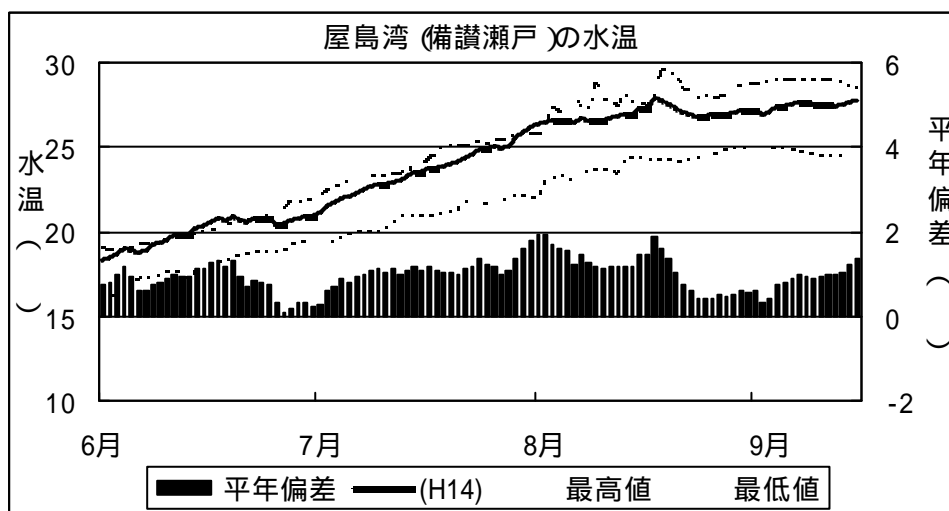
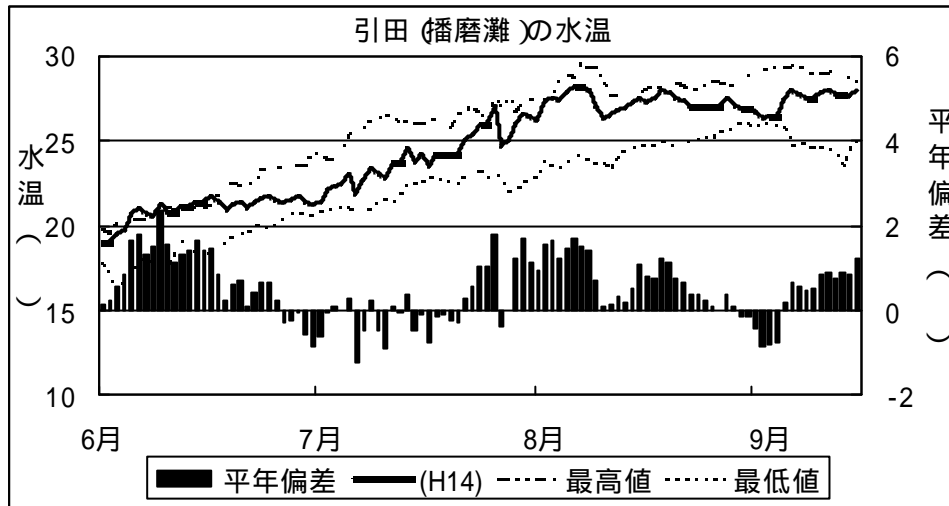
2) 定置観測(水温)

播磨灘(引田): 8月上旬に1前後で推移していた年平均偏差が中旬,月末及び9月上旬にやや低下していたが,その後上昇に転じている。

備讃瀬戸(屋島): 8月上中旬に1~2の範囲で推移していた年平均偏差が下旬から9月上旬にかけて小さくなっていたが,その後上昇に転じている。

燧灘(大浜): 8月上中旬下旬に2前後で推移していた年平均偏差が下旬に-1前後に低下していたが,その後やや上昇している。

平年値の算出期間 引田及び大浜:平成元(1989)~平成12(2000)年
屋島:昭和50(1975)~平成12(2000)年



3) 赤潮

播磨灘：8月中旬、南西部で *Mesodinium rubrum* の赤潮の発生があった。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：8月上旬、南部で *Nitzschia* sp. の赤潮の発生があった。

4) 卵稚仔

調査日：平成14年9月4日（播磨灘）、3日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	6.75	11.38	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00	11.00
備讃瀬戸平均	3.00	1.80	0.00	0.00	0.00	0.00	6.47	1.80
燧灘平均	24.29	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	1.29	3.57
総平均	8.97	4.03	0.00	0.00	0.00	0.00	4.07	4.67

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	40.9%	1450.7%	-	-
備讃瀬戸平均	383.7%	471.4%	-	-
燧灘平均	161.9%	27.3%	-	-
総平均	108.1%	526.1%	-	-

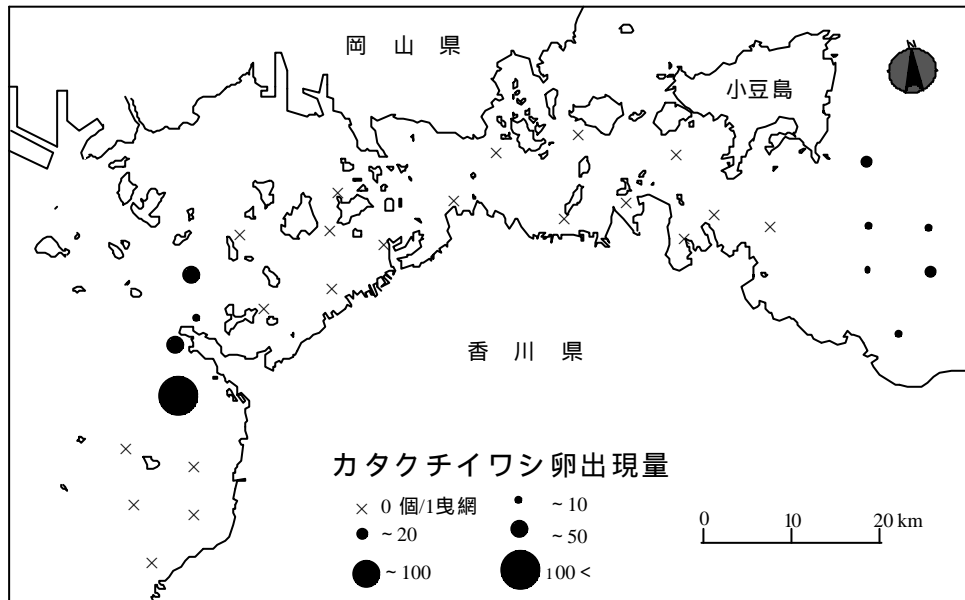
- : 平年値が 0 の場合を示す。

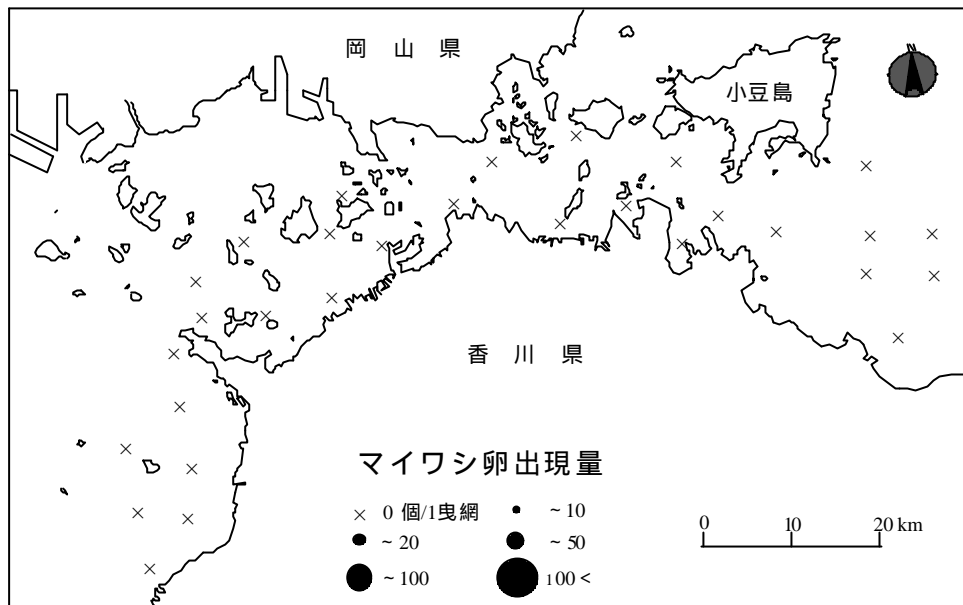
平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和 55（1980）～平成 12（2000）年度

マイワシ：平成 5（1993）～平成 12（2000）年度

マイワシの卵稚仔は、全ての調査地点で採集されなかった。





2. 漁況

8月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底曳き網では主にイボダイ、小型イカ、小エビ、マアナゴ、カマス類、シャコ、手長ダコが漁獲されている。</p> <p>柵網ではマアジ、ウルメイワシ、サバ類、マイワシが多獲され、特に、マアジは0歳魚主体であるが、前月から好漁が維持されている。</p> <p>船びき網のシラス漁は、8月は不漁で休漁状態となっていたが、9月中旬頃からまとまった漁獲がみられはじめ、500kg ~ 1000kg/日・隻の漁獲が続いている。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底曳き網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、エビ類、マダイ、マダコが漁獲されており、特に、小型のマダコ(200 ~ 300g前後)は前月に続いて8月も多い。</p> <p>込し網、流し刺網のマナガツオ漁は、9月上旬で終了したが、漁獲は小型魚が主体で前年を下回って低い。</p>
燧 灘	<p>底曳き網では主にメイタガレイ、エビ類、マダコ、シャコ、マルアジ、シロギス、小型イカ類が漁獲されている。</p> <p>いわし機船船びき網のカタクチイワシ漁は盆明けから中羽主体の漁獲があって、9月に入っても中羽、シラス主体の漁獲が続いている。8月までの漁獲量は前年の約1.1倍である。</p>